

朝鮮通信使饗応食（第7報） 正徳信使饗応食にみる献立構成
 長崎女子短大 ○大坪藤代 香川県明善短大 秋山照子
 香川大教育 宮川金二郎

目的 江戸期の食構造調査の一環として朝鮮通信使饗応食を取り上げて来たが、前報までの饗応は、ほぼ前例を踏襲した献立構成であった。しかしながら正徳信使では来聘制度の改変により三使～上官は陸路毎食毎の饗応食が、海陸路併せて5か所のみ（五所路宴）と縮小された。そこで中官以下についての饗応食を分析し、宝暦信使との比較を試みた。

方法 主として宗家記録類より対象を前回と同様の中官・小童、通詞、下官、通詞下々の4段階に分け、各々の参・下向及び朝・昼・晩の各献立を分析した。

結果(1) 献立構成は表の通りである。(2) 格差要因は①身分②食事区分(晩>昼>朝)③参・下向(参向>下向)である。(3) 格差の内容は④汁と菜の数⑤吸物・肴の有無と数⑥菓子の有無と種類数である。(4) 上記の結果は宝暦信使とはほぼ同じであるが一部菜

の数が多く(○数字)、上層階級の饗応食縮小に対し下層では影響がなかったことが伺えた。

身分 ・ 献立	朝				昼				晩				
	汁	菜	肴	菓子	汁	菜	肴	菓子	汁	菜	吸物	肴	菓子
中官小童(参)	2	7	2	2	2	7		3	2	8	1	2	3
(下)	1	5		1	2	6		1	2	6	1	1	2
通詞(参)	1	5	1	1	2	5	1	1	2	6⑤		2	2
(下)	1	5		1	2	5	1	1	2	6⑤		1	1
下官(参)	1	5④		1	1	5		1	1	6		1	1
(下)	1	4		1	1	5④		1	1	5			1
通詞下々(参)	1	4			1	4			1	4			
(下)	1	4			1	4			1	4			